

I. 導入

おはようございます。今朝はまず皆さんに質問したいと思います。西洋の学者たちは、聖書の最初の5つの書簡をモーセ五書と呼びますが、ユダヤ教徒は同じものをトーラーと呼びます。これらをご存知のとおり、モーセの記したものですから、モーセの書と呼ぶのが簡単ですが、その内容はどのようなものなのでしょう。モーセ五書の中心テーマは何でしょうか。後ほどその答えについてお話しますが、ここで少し以前の学びを振り返ってみましょう。



皆さんも覚えておられるように、ステファノは執事であると同時に、説教者、奇跡を行う者でした。ステファノは神の恵みと力に満ちた人でした。しかし、「解放された奴隷の会堂」に属するユダヤ教徒たちがステファノにねたみを持つようになりました。使徒 6:11 にはこうあります。「そこで、彼らは人々を唆して、『わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのを聞いた』と言わせた。」

彼らはステファノを捕らえて最高法院に引いていきました。そして、使徒 6:13-14 にはこのような記述があります。「6:13 そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。『この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。6:14 わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』』」

これはまったくのぬれ衣でしたが、深刻な内容であったため、ステファノの身は危険にさらされました。それでも、以前の学びですで見たとおり、ステファノは自己弁護をしませんでした。むしろ、彼を糾弾する人々が悔い改めてイエスを信じる信仰に導かれるような言葉で対応しました。ステファノは、石打ちにあっている間も、愛をもって応じました。使徒 7:60 には、ステファノの最期が記されています。「それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」ステファノは、彼を非難する人々と最高法院に対して大いなる愛を示したのです。

先週、私たちはステファノのメッセージの第一部を学びました。そこでは、アブラハムとヨセフの話に焦点が当てられていました。これらの話は、メシアなるイエスを指し示す預言的要素を多く含んだものです。今日は、彼のメッセージの第二部を学んでいきます。ここでは、モーセについて、およびモーセがエジプトで奴隷だったイスラエルの民を救い出したいきさつに焦点が当てられています。最高法院にとって、モーセの話は他人事ではありません。というのも、彼らはモーセに選ばれた70人の長老の子孫だと自称していたからです。

民数記 11 章には、イスラエルの民がモーセに文句を言う場面があります。するとモーセは主に向かって、民を導く責任は自分には重すぎると愚痴をこぼします。民数記 11:16 には、主の返答が記録されています。「主はモーセに言われた。『イスラエルの長老たちのうちから、あなたが、民の長老およびその役人として認めうる者を七十人集め、臨在の幕屋に連れて来てあなたの傍らに立たせなさい。』」モーセは70人の長老を選び、主の前に連れて行きました。そこで主は、彼らにご自身の霊を授け、イスラエルの民を導くモーセの責務を彼らが手伝えるようにされました。



最高法院の議員 70 名は、自分たちはこの権威を正当に継承する者だと考えていました。しかしステファノは、彼らがモーセの話を実際の意味で理解していないことを指摘します。彼らが本当にモーセの話を理解し信じていたなら、イエスに有罪判決など下すことなどせず、このお方を歓迎したでしょう。ヨハネ 5:46 でイエスがおっしゃったとおりです。「あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。」今日のメッセージの冒頭で質問した問いの答えがここにあります。モーセは来たるメシア、イエスについて書いたのです。モーセ五書は歴史書ですが、本当のところはイエスについての書簡なのです。このことを理解すれば、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記を新鮮な目で読めるようになります。そして、すべてのページにイエスを指し示す予型や言葉を見出せるようになります。



では、使徒言行録 7:17-36 にあるステファノのメッセージを読んでいきましょう。ここで私たちが今話したことをステファノがよく理解していたことが分かります。

II. 聖書朗読 使徒言行録 7:17-36, (新共同訳)

7:17 神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくにつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。 7:18 それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。 7:19 この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。 7:20 このときに、モーセが生まれたのです。神の目に適った美しい子で、三か月の間、父の家で育てられ、 7:21 その後、捨てられたのをファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てたのです。 7:22 そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。 7:23 四十歳になったとき、モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。 7:24 それで、彼らの一人が虐待されているのを見て助け、相手のエジプト人を打ち殺し、ひどい目に遭っていた人のあだを討ったのです。 7:25 モーセは、自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれると思いました。しかし、理解してくれませんでした。 7:26 次の日、モーセはイスラエル人が互いに争っているところに来合わせたので、仲直りをさせようとして言いました。『君たち、兄弟どうしではないか。なぜ、傷つけ合うのだ。』 7:27 すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました。『だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。 7:28 きのうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。』 7:29 モーセはこの言葉を聞いて、逃げ出し、そして、ミディアン地方に身を寄せている間に、二人の男の子をもうけました。 7:30 四十年たったとき、シナイ山に近い荒れ野において、柴の燃える炎の中で、天使がモーセの前に現れました。 7:31 モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。 7:32 『わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。 7:33 そのとき、主はこう仰せになりました。『履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。 7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』 7:35 人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。 7:36 この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。

III. 教え

先週学んだように、イスラエルの一家は飢饉を逃れるためにエジプトに移り住みました。そのころ、ヨセフはエジプトにおいてファラオに



次いで二番目に実権を握る立場にいました。これにより、イスラエルの一家は良い待遇でエジプトに迎え入れられました。ヨセフはエジプトを飢饉から救ったわけですから、このような好待遇は長年続いたことでしょう。しかし、時が流れ、ヨセフの時代の人々は皆死んでしまいました。時代とともに、新しいエジプトの統治者たちはヨセフのことを忘れていきました。モーセの時代には、すでにイスラエルの一家がエジプトに移り住んで 400 年もの年月が経っていました。

このとき、イスラエルの一家はおびただしい数に増え、イスラエルはもはや民となりました。**使徒 7:17** にはこうあります。「**神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくとつれ、民は増え、エジプト中に広がりました**」神は、アブラハムの子孫を空の星のようにするとアブラハムに約束されました。そして、エジプトで彼らは急激に増えました。あまりの急増ぶりに、ファラオがエジプトの前途について危機感を覚えたほどでした。



ファラオはイスラエルの民に国を去るよう求めることもできたでしょう。または、友好関係を結ぶこともできたでしょう。しかし、このころにはイスラエルの民は奴隷の身分とされており、彼らの労働力はエジプトの経済を支えていました。それで、ファラオはイスラエルの民をエジプトに留めておきたかったのですが、これ以上人数が増えるのは好ましくないと考えました。そこで彼が取った対処は、あまりに無情なものでした。**使徒 7:19** 「この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。」

イスラエルの民にとって、悪夢のような時代でした。彼らは、厳しい労働監督者の元で、ファラオの苦役に耐えました。同時に、ファラオは、イスラエル人が増えるのを防ぐために、彼らの男の赤ちゃんを殺そうとしました。モーセが生まれたのはまさにそのころです。モーセは母によって三ヶ月かくまわれていました。しかし、隠しきれなくなり、モーセの母は赤ん坊のモーセをかごに入れ、ナイル川のほとりの葦の茂みの間に置きました。その場所は、ファラオの娘が水浴びをしにくる場所でした。ファラオの娘はモーセを見つけ、家に連れて帰り、自分の息子として育てました。**使徒 7:22** 「そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。」



モーセは、エジプトの王子として育てられました。そして、その身分に伴うさまざまな特権も得ていました。けれども、いつかの時点でモーセは自分がエジプト人ではないことを知るようになりました。そして、40 歳になるまでには、同胞であるイスラエルの民を助ける仲裁役になることを考え始めていました。しかし、同胞を助ける試みは間違った方向に進み、モーセはイスラエル人に暴力を振るっていたエジプト人を殺してしまいました。この事件はすぐに知れわたり、翌日、モーセがけんかをしているイスラエル人の仲裁に入ろうとすると、このように言い返されました。**使徒 7:27** 「すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました、『だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。』」こうしてモーセはエジプトから逃げざるを得なくなりました。



モーセはエジプトに 40 年間住みました。そして、次の 40 年をミディアンの地で過ごしました。彼はそこで結婚し、二人の息子も生まれました。モーセは、エジプトの王子のりっぱな衣装を脱ぎ捨て、質素な羊飼いの服を身につけました。そして、ファラオではなく、しゅうとに仕えました。エジプトでは、最高の教師から教育を受けたモーセでしたが、荒野では羊の群れが彼の教師でした。そこで、モーセはファラオの宮殿では学べなかったことを学んだのです。それは、謙遜です。**民数記 12:3** にはこうあります。「モーセという人はこの地上のだれにもまさって謙遜であった。」

私たちも主に仕えたいと思うなら、何よりも謙遜を学ぶ必要があります。モーセは謙遜をしっかりと学び、やがて主がモーセを燃える柴から呼ばれ、イスラエルの民を自由にするためにモーセをエジプトに送られる日がやってきました。使徒 7:31-32 「7:31 モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。7:32 『わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。」主はモーセに語り、力を与え、イスラエルの民を救い出すために送り出されました。エジプトで、モーセは神の力を何度も見せつけ、ファラオはついに抵抗できなくなりました。



400 年もの時を経て、イスラエルの民はついにエジプトから解放されました。けれども、彼らの不従順な心のせいで、約束の地に入ることはまだできませんでした。アブラハムに約束された地にイスラエルの民が入って自分のものとしてできるようになったのは、40 年の荒野での生活の後でした。また別の機会に、エジプトからの脱出と、荒野でイスラエルの民が過ごした 40 年については詳しく話したいと思います。

今日は、使徒 7:35 に戻りましょう。「人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。」ステファノはなぜここで、「このモーセ」と言っているのでしょうか。それは、まさにイスラエルの民が拒んだモーセを、イスラエルを救い出す指導者として神がお選びになったということを強調するためです。それは、イスラエルの民によって拒まれたが、神によって主であり救い主とされた、もうひとりの人を連想させるためです。

モーセと同様、イエスは人に受け入れられませんでした。しかし、神によって支配者であり救い主とされました。ステファノは、この点を強調しつつモーセの話を振り返りました。そうすることによって、最高法院がモーセとイエスの数多くの類似点を吟味し、申命記 18:15 でモーセが語った来たる預言者がイエスであることに気づいてほしいと思っていたのではないのでしょうか。この個所で、モーセはイスラエルの民にこう語っています。「あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。」

モーセとイエスにはどのような類似点があるのでしょうか。その人生を比較してみましょう。

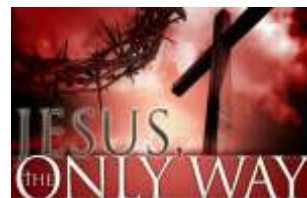
モーセ	イエス
生まれたとき、ファラオがモーセを殺そうとした	生まれたとき、ヘロデ王がイエスを殺そうとした
ファラオの娘の養子	マリアの夫ヨセフの養子
エジプトで育つ	生後数年間エジプトに滞在
イスラエルの民をあわれんだ	エルサレムのために泣かれた
誰よりも謙遜	へりくだって人となられた
イスラエルの民に受け入れられなかった	イスラエルの民に受け入れられなかった
イスラエルの民を救い出すために神によって送り出された	信じる者すべての救い主として神によって送り出された
偉大な奇跡を行った	偉大な奇跡を行った
預言者	預言者
羊飼いやがてイスラエルの牧者	信じる者すべての偉大な牧者

これらは、モーセの人生がイエスの人生を預言的に指し示す型であることをあらわす一例で

す。少し学んだだけでも、少なくとも 10 以上の類似点をモーセとイエスの人生や働きに見出すことができるでしょう。もちろん、モーセとイエスとの間には大きな違いがあることも忘れてはいけません。モーセは預言的な型、キリストの予型ですが、イエスは主であり神です。ヨハネ 1:17 にはこう記されています。「律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。」

IV. 結び

モーセは神に従う偉大な人でした。しかし、罪の赦しや永遠の命を得るためには、私たちはイエスに目を向けなければなりません。使徒 4:12 は宣言します。「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」ステファノは、旧約聖書の話や予型を用いて最高法院に語りました。それは、最高法院の人々にとって一番分かりやすい話だったからです。けれども、ステファノが彼らに本当に理解してほしいと願ったのはとてもシンプルなことです。イエスが主であり救い主である、そして、イエスが唯一の道であるという真理です。



V. 祈り

愛する天の父よ、

あなたの聖なる御名をたたえます。そして、永遠の愛と尽きない恵みを感謝します。あなたのみことばである聖書が与えられていることを感謝します。何よりも、イエスを信じる者すべてに与えられる驚くべき救いを感謝します。主よ、私たちには救いが必要です。私たちは罪人です。今、罪に満ちていることを告白し、イエスの御名を呼び求めます。イエスの名によって、また、十字架上で主が成し遂げられた御業によって、私たちの罪を赦してください。そして、あなたと和解することができるようにしてください。私たちのためにこのすばらしい救いを備えてくださり、大いなる愛を示してください。ありがとうございます。あなたとの関係を新たなものとしてください。そして、復活と永遠の命という無償の賜物を与えてください。あなたの聖霊で満たしてください、私たちがあなたの愛と恵みについて大胆に語るができるようにしてください。イエスよ、感謝します。イエスよ、感謝します。主よ、今どうかあなたの民の必要を満たしてください。あなたは一人ひとりの必要をご存知です。悲しむ者を慰め、弱っている者を力づけ、病に苦しむ者を癒してください。あなたの無限の愛とあわれみにより、そしてあなたの栄光のために、あなたの民の必要を満たしてください。主に栄光がありますように。私たちの生活で、家庭で、教会で、そして全地であなたが栄光を受けられますように。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。